

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営推進会議や地域とのかかわりを意識し、住み慣れた馴染みの地域で生活できるよう、町内の行事(花見、いきいきサロン、敬老会)等の支援を行っている。独自の理念を作成し地域の中で当たり前暮らしに行く事が盛り込まれている。	○	当ホームの理念でもある一人ひとりが地域の中でその人らしく当たり前暮らしながら人間としての尊厳を大切に生きていけるよう町内の行事に、これからも参加したい。事業所の理解者や応援者を増やしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者職員は、理念の実践に向けて研修やホーム内に理念の掲示をしケアプランに盛り込んだり職員同士が会議で確認しあうことで理念の共有に日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者や家族の方が見やすいよう、ホール、スタッフルーム内に掲示したりパンフレットへも明示している。また、運営推進会議で地域の方と話し合いの場を設けてあり、ホーム見学者へも理念の説明を行っている。毎月のホームだよりにも理念を思わせる内容を取り入れている。	○	運営推進会議や家族会で話し合いの場を設ける事で理念が浸透するよう努めている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会へ入り、地域の祭りや花見、敬老会に参加しホームを理解してもらおうと共に、町内会のボランティアや、運営推進会議を行うなど、交流を図っている。寸劇隊を結成し認知症についての寸劇や講演を行っている。隣家火災時、町内の方が駆けつけて下さり、地域の方との繋がりを深く感じる事もあった。利用者のプライバシーに配慮しながら、認知症介護実践者研修生の受け入れも行っている。また、講師を招き家族会で地域の方に、介護の体験談など話していただいた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	運営推進会議での意見を参考にして、改善や取り組みを行っている。
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	○	防止法に関する理解を深め、ホーム内で虐待が見過ごされる事のないようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	職員以外でも意見を言える家族や運営推進会議のメンバーと話し合える機会を多く持つようになっている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	メリット、デメリットを十分に考慮した上で職員の配置換えを行っている。新しく担当する職員へ詳細に引き継ぎを行い利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。職員の異動は他ユニットの利用者の把握や勉強になるという事を家族会や運営推進会議にて報告し、賛同していただいている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修やユニット毎に企画した研修を計画しており職員は経験年数に応じた研修、内容によっては職員が講師になり受講の際はレポートを提出、資料回覧、伝達講習もしている。採用時研修後は計画作成担当者によるOJTも行っている。外部の方に介護計画について、スーパーバイズしていただいた。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との実践報告会や市内のGHの勉強会などへ参加し交流する機会を持ち職員の育成につながる取り組みをしている。寸劇の依頼が在宅介護支援センターよりあり、交流や情報の交換もしている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談等の機会を設け、運営者や管理者は職員の悩みやストレスを聞いている。勤務希望を受け入れたり、職員が組織する青空会に理解を示している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の日々の努力や勤務状況等を把握しており職員の心身の健康を保つ為、年2回の健康診断の実施、体制を整えている。また各自が向上心を持つよう資格取得の支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用希望や家族と面談する機会を設け、GHの特徴をスライドを使って説明している。相談を受ける際は利用希望者や家族との信頼関係を築く事を意識し本人の不安、家族の思いを汲みとるように対応している。必要に応じ自宅訪問や、当ホームを利用しなくても定期的に相談にも応じている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者や家族のニーズに対して、何が一番大切か、また必要かを見極め、小規模多機能型居宅介護など対応できる事については実行するよう努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して利用者がサービスを利用できるよう、慣れるまで特定の職員による関わり、なじみの物の持ち込み、好みの食事の提供、双方が安心されるよう家族の宿泊もある。初期は毎日ホームでの様子を家族へ電話連絡し連携を保つようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であっても職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。利用者には残存機能、得意分野で力を発揮してもらう等、利用者職員が協働しながら生活している。洗濯物の干し方、調理、漬け物、そばうち、習字、畑等、教えていただく事もたくさんある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の様子や家族の思いや気付きを共有し共に支えていく関係を作るよう来訪時に話の出来る環境作りや雰囲気而努力している。毎年1回、家族会を開催し意見交換している。新年会へ家族が参加し、片付けも手伝ってくださる。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が途切れない様、日々の利用者の様子を面会時、ケアプランの更新、そらだよりや電話等で伝えたり、誕生会や新年会へお誘いし家族がホームへ来やすいよう支援している。認知症について、ホームだよりや寸劇などの活動をしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係と同様に、利用者がこれまでの関わってきた人や馴染みの場所等、把握に努め知人との電話連絡を取り持つなど必要に応じて利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。誕生日には家族へお誘いの電話をしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良し悪し等、利用者の人間関係を把握し利用者同士が共に助け合い支え合って暮らしていく事の大切さを理解し、活動、居場所の確保を行っている。普段は相性が良くなくても、歌やドライブなど場面に合わせ調整をしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も利用者や家族の相談にのった事がある。退居後に面会や本人の写真を送ったり、家族会への案内を出し、参加してくださる方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向等が十分に把握できない場合、職員が利用者の視点に立って職員間で話し合い、把握するよう努めたり、利用者の事をよく知る家族や関係者から情報収集を行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしさを引き出せる様、利用者の生活スタイル、個性、価値観を把握し利用者のプライバシーに配慮しながら利用者をよく知る親類などからも情報収集を行っている。バックグラウンドを引き出し本人にとって快か不快かを見極めるようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムが把握出来る様24時間アセスメントを使い（食事量、睡眠、排泄の時間）生活習慣や1日の中でどの様な体調変化があるか等を把握している。認知症の進行による生活リズムの変化も早急に対応できるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使い利用者の言葉、しぐさを大切にし、関わる職員の意見や気付きを基に職員間で十分話し合い作成している。必要に応じて家族や医師・看護師等、利用者をよく知る人達の要望を聞きながら現在の本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	項目ごとに期間は決まっている。利用者の身体状況、周辺症状の変化や家族等の希望に合わせ随時見直しを行い新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子を一人ひとりケアプランに沿って記録しており、日課表は身体面と生活面に分けてある。また、個人情報や職員が共有できるカードックスを整えたり、全体の情報は申し送りノートを利用し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、常勤の看護師を配置し健康管理や職員の教育に取り組んでいる。また、友人の面会や家族面会時は、必要に応じて送迎等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員である民生委員、婦人部ボランティアなどに協力を得て利用者の意向に応じて公民館で行われる催し物に参加している。消防訓練には消防署員が立合い助言を得ている。運営推進会議においても、交番の署長が参加し助言を得ている。利用者の意向で選挙の支援も行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容が2業者あり利用している。美容院へ行かれたりする方もあり、本人の意向に応じている。他事業所のケアマネジャーとの情報交換している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が介護予防教室や運営推進会議に出席している為権利擁護についても協働していきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診の他、体調不良や心配事のある時は、いつでも医療機関に気軽に相談する事が出来、通院方法や受診結果の伝達方法についても利用者や家族の納得が得られている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医、利用者一人ひとりに応じた指示や助言をしてくれる医師を確保し家族、職員も含め話し合い、薬の調整を行っている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持った職員を配置し、利用者の普段の状態や持病等を十分に把握し24時間いつでも気軽に相談することができる。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、毎日安心できるよう見舞いに行き状況に応じて早期退院に向けた話し合いを医療機関と行い家族へも報告している。退院後ホームへ戻られる際は介護計画を見直している。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について事業所として明確な方針を立てている。家族へも契約時に説明しアンケートをとったり、家族会で終末期の体験談を話していただいた。	○	終末期を迎えた場合の家族と協働していけるか家族の思いや考え方の変化などに対応できるサービスの限界など話し合う必要がある。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら支援していく体制が整えられている。職員への研修を行い、看取りについて意見交換しており、家族会で報告している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	環境の変化によるダメージが認知症の人にとって大きいことは理解しており、ダメージを最小限とする環境整備をする為に自宅訪問し、家族等の協力を得られるよう働きかけている。退居後も面会に行ったり情報の提供や相談をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	声掛けが心理的虐待につながらない様、利用者の羞恥心に配慮している。言動を否定したり拒否したりせず、対応について職員で日々の確認や改善の取り組みをしている。個人情報や書類は外部からは見えないよう配慮している。	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	利用者が十分に意思表示出来なくても、表情や態度から混乱しないよう利用者に合わせた衣類や食材の調整をし、自己決定できるよう支援している。利用者の意見を取り入れ、食事メニューやドライブの場所、散歩コースを決めている。場面作りも行い言葉や希望を引き出すよう努めている。	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者の行動を急がせず一人ひとりのペースを大切にしている。1日の予定は決めておらず、その日の希望や身体、心理状況に合わせた支援を行っている。自宅へ行ってみたいと話した利用者の自宅へいったり、特定の場所にしかない物が食べたいと話し、買い物へでかけた。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	利用者の個性や希望を尊重し、利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれ（化粧、マニキュア）が出来るよう支援、調整している。馴染みの美容院へ家族と行かれる方もいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力や意志等に応じ、調理の準備や後片付け等、職員も一緒に行っている。食事は一緒に席で、利用者の好みや苦手なもの、食べこぼしに配慮している。畑より旬の野菜を一緒に収穫したり、郷土料理を一緒に作り楽しんでいる。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品を把握しており、正月、花見、誕生会、敬老会など、看護師と相談し状態に配慮しながら、嗜好品のビール・ワインを飲んでいる。利用者だけでなく職員も一緒に飲酒したこともある。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿や便の確認は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しながら、他者へ気付かれない様になっている。オムツ使用時期についても、何度も話し合い安易にオムツなどに変えていない。パターンをチェックシートに記入把握し事前誘導を行う等、利用者の自立に向けた支援をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否される利用者へ声掛けや対応を話し合い工夫している。利用者の習慣に配慮しながら、つかり過ぎや、洗身等に対して適切な支援をしている。端午の節句には菖蒲湯、冬至にはゆず湯へ入るなど季節の行事にも気を配り、入浴を楽しんでいる。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体操や散歩など、リズムを整えその日の出来事や体調に応じて居室での昼寝や小上がりでの日向ぼっこ等休息を取り入れている。寝つけない利用者へは付き添ったり飲み物を提供する等している。就寝時間や起床時間は決めず、一人ひとりの習慣や状態に合わせて記録もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけをしている。(掃除、裁縫、うた、将棋、俳句、畑、習字、そばうち、ドライブ、買い物等)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望、家族の希望に配慮しながら、自らが金銭管理を行えるよう支援し、管理を行っていない利用者でも買い物時には支払いを行ってもらうなどしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や外気浴、畑、日向ぼっこをし利用者の希望で楽しみや気分転換につながるよう支援している。習慣やその日の気分、能力、身体状況に合わせて、外出の際、移動方法や移動距離に配慮した支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の会話から利用者の行きたい場所を知っており、希望が出されなければ職員の働きかけにより外出の機会を設ける様努めている。ドライブ、花見、外食、年一度の日帰り旅行をしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者へくる電話や手紙を歓迎する等、利用者が家族や知人等、電話しやすい雰囲気づくりをしており、電話の操作介助し、他の利用者に知られない様プライバシーに配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時には居室以外にも過ごせる場所を確保しており、声掛けや日常の状態を話すなど過ごしやすい雰囲気作りをしている。昼食、夕食時と重なった時は一緒に食事していただいている。宿泊の体制も整えている。訪問時間の制限はなく場合によっては送迎もしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止検討委員会を設置しマニュアルを作成している。職員は禁止行為を理解しており、委員長と役員は研修や月別の目標を掲げ2ヶ月に1度、会議にて虐待防止について話し合いをし、会議録を回覧周知している。	○	介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を周知徹底している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室等、利用者が日常的に出入りする場所を施錠せず、チャイム、職員同士で所在確認をしている。利用者の外出傾向を察知し、職員が付き添う支援をしており、行方不明時には地域の方の協力も得られ地域の方の連絡網がある。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者を見守りやすい場所において、利用者の把握に努めている。ヒヤリハットをケアプランに盛り込み、リスクを予測し回避出来るよう職員同士で連携確認し、安全に努めている。夜間巡視は22:00、0:00、2:00、4:00と時間が決まっているが利用者の状態に応じて30分～1時間ごとに巡視している。	○	GPSや携帯電話の基地局を利用した位置情報サービスの導入を予定している。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品、薬品・洗剤の保管場所や方法について具体的に取り決めがある。現金、内服薬、裁縫箱はスタッフルームにあるが手の届かないようにしたり、目に付かない工夫をしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止検討委員を立ち上げ、事故防止についての回覧があり、全職員が周知している。ヒヤリハットや事故報告のシステムが整っており、毎月のユニット会議や、ケアプラン更新時のケース会議で話し合い、それを毎月の計画作成担当会議で話し合い記録を回覧、運営推進会議でも報告している。	○	転倒防止など、事故防止の研修を行い理解する事で防止への徹底に取り組んでいる。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は応急手当や救命救急の研修を受講しており、夜間の対応を含めて緊急マニュアルが作成されている。AEDなどにも対応できるよう定期的に講習を受け、看護師からも定期的に講習を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を行い、災害時の対応について住民や警察署、消防署から理解、協力が得られるよう運営推進会議で働きかけている。隣家火災時には協力を得られた。災害時、食料はユニット毎に、水は全ユニット分を保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ヒヤリハットから利用者一人一人に起こり得るリスクの把握に努め、その対応策を家族等に説明している。起こり得るリスクの対応について何度も話し合い利用者の状況や家族の要望、変化によって見直しを行い介護計画を作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変の兆候があった場合には、カードックスを参考にし記録に残すと共に、職員同士で共有し必要に応じて医療機関、医師、看護師へ相談する対応をとっている。日勤者は毎日看護師へ利用者の状態を文章にして伝えている。	○	早期発見に努める様、異常時は申し送りを記録に残している。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は速やかにカードックスに記録、職員に周知、飲み忘れ、誤薬が無い様にしている。分包、服薬時にはダブルチェックしている。服薬による状態変化時は記録に残し看護師や家族、医師へ報告している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を安易に使わない様1日の食事や排泄、活動状況を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行っている。研修で外部の栄養士より便通の良い食品について聞いた事を生かしている。服薬は医療機関、看護師、本人と相談し調整している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行い、声掛けや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援や用具を準備している。歯磨き後は毎回ボードへ自分でチェックされている方もいる。家族の希望にて歯科に定期的に歯石を取ってもらう方がいる。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士よりいただいた資料を参考に、摂取カロリーや栄養バランスを考慮した献立を考え、必要に応じて食事や水分量の記録を残している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策委員会を設置し、マニュアルが作成されている。うがい手洗いのポスターを見える所へ掲示、家族、来客より協力を得ている。委員は保健所の研修などへ参加、伝達講習を行い周知に努めている。家族より同意を得てインフルエンザ予防接種をしている。	○	日頃から手洗いうがいの徹底、トイレ、手すりなどの消毒を行い予防に努めている。職員もインフルエンザ予防接種を受けている。これからも保健所の研修会へ参加するなど、知識を深め予防に努めたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や冷蔵庫の衛生管理について、業務に盛り込まれ実施できているか記録に残している。食材の管理にも十分に気をつけ賞味期限に合わせ使用している。食品の安全な取り扱いというポスターを掲示したり、買い物はほぼ毎日でかけ一度にたくさん購入していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が地域の方の散歩コースになっており、外出時や散歩時に挨拶している。プランターへ花を植えており、地域の方と花について利用者と会話されていることもある。建物の看板について運営推進会議にて話し合いをした。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保てるよう調度品を配置している。共有空間には窓を多く設け、換気、景色から生活感、季節感を感じられる様にしカーテンで光の調節している。行事ごとに共同空間へ関連の物品を飾っている。（ひな人形、七夕かざり、お盆用品）神棚もある。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は家庭的な作りで気の合った利用者同士、小上がりやテレビ前のソファでくつろいでいる。中庭やホール、廊下では利用者同士盆踊りを楽しまれている。他ユニットより気の合う利用者の訪問もある。マッサージ機があり、気兼ねなく自由に使える。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	出来る限り入居前の状態に近いよう家族と相談 し、本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込めるよ う努めている。又、本人の状態の変化に合わせ調 整している。(タンス、テレビ、布団、食器、化 粧品、仏壇など)		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天候や居室内の状況に応じて窓を開け換気して いる。温度調節は空調、床暖等を使い分けてい る。温湿計を使い管理日誌への記録をしている。 冬場は居室に濡れたタオルを掛けたり、霧吹きを 行い保湿に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりや流し台の高さなどの利用者の安全に配 慮している。利用者の身体状況の変化に応じて、 ユニット会議などで話し合い検討、生活の環境の 改善を行う体制が整えられている。浴槽と脱衣所 には滑り止めマットを使用している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者一人ひとりの状態に合わせた表示の工夫 に取り組んでいる。夜間、トイレに迷わないよう 戸は開けたり「トイレ」から「便所」へ表示の変 更した。カレンダーは手作りの目めくりを使用し ている。字の大きさ、色などにも配慮している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	利用者が建物を有意義に活用できる様、中庭で 外気浴、食事会、盆踊りをされたり、ホールでは えんぶり、新年会などの催し物へ参加、玄関前 ではバーベキューなども行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・認知症について、職員による寸劇隊を結成し講演をしている。・資格取得することでスキルアップにつなげる。・各委員会を立ち上げ、自分たちの能力の向上につなげている。・外部の講習や内部研修を毎年行い、ケアの向上につなげている。・年に一度家族のつどいを行い、職員の思いや、家族の思いなどを話しあったりコミュニケーションをはかっている。・町内会へ入り、地域の代表の方々と運営推進会議を開き意見交換をしている。・看護師の資格を持った職員を配置し、24時間気兼ねなく相談できる。・その人らしいあり方や、馴染みの暮らしの継続が出来るよう支援してる。・郷土料理を一緒に作ったり、一年の行事、故郷の行事を取り入れている。・春は花見、花植え、畑など、夏はバーベキュー、盆踊り、花火など、秋は野菜の収穫、日帰り旅行など、冬は漬け物作り、新年会など年間を通し活動している。・誕生会はまとめて行わず、一人ひとり祝っている。